

香りのする絵

画材に対して、いろんなアイデアや工夫を試してみる。意外と私は好奇心が旺盛で色々試してみる。その中の成功例を紹介すると、香りのする絵、バラの香りや梅・沈丁花・ロウバイ…等々。一つの方法は、香水を作って絵の具に混ぜるのです。薬局で消毒液のエタノールを入手します。この液の特徴は揮発し憎くて、匂いを吸収するということです。バラの場合、六分咲きが、香りがきつく、その花弁を蓋の広いジャム瓶等に入れ、一昼夜したし、その液を遮光瓶(薬瓶)等に入れ、保存し、使用時に数滴絵の具に混ぜれば、バラの香りのする絵になります。ただし、香りがするという事は揮発していることで、次第に香りは薄れていきます。そこで、さらに工夫して、ローズの香りのするローソクに目をつけ、バラの絵に、塗りつけたり、画面の裏に塗り込めば長期間、香ることが出来ます。さらに、応用編として、綿花にしみこませ、玄関先に置けば、季節ごとの香りを楽しむことが出来ます。また、木材等にしみこませ、日曜大工をすれば、香りのする日用品が作ることが出来ます。